

なんでやねん!? その3

サービック労組 「管理者」「本社社員」組合員化

本号（その3）では、サービック労組が「管理者」「本社社員」組合員化について、突如に「提起の延期」「オープンショップ」を行ったことについて明らかにします。

突如の「提起の延期」「オープンショップ」は、「なんでやねん!？」

サービック労組は、2023年7月21日付けの情報（新幹線ニュース通算469号）などで、「マネージャー及び本社の組合員化」の【基本的な考え方】を以下（要約）のように明らかにしています。①今後10年を見越したビジョン2033を策定し実践的に業務改善を行っていく。こうした大きく変わる変革期を迎え労使関係はより重要となる。②一般企業では当たり前であった非現業社員や管理者の組合員化を図ることにより、さらに一体となって会社との民主的かつ建設的な労働組合運動に取り組んでいく。③組合員数が900名から700名ほどに減少して組織力が低下していることから組織拡大を目的する。などです。以上だけ見れば当たり障りのない内容です。

しかし、サービック労組は、「突如、組合員化の提起を延期」や「突如、管理者等だけをオープンショップ」という非常識なことを行っています。サービック労組の組合員だけでなく誰もがサービック労組の非常識さに「なんでやねん!？」となります。

火野宮委員長らが管理者に昇進！組合員化の狙いはこれか!？

組合員化が実施された同じ4月1日付けで、サービック労組の火野宮敦（委員長）、中山良行（書記次長）、西村光弘（特別執行委員）、谷口剛（特別執行委員）の役員のみなさんが、「管理者（マネージャー）」に昇進しました。

これまでは「管理者（マネージャー）」に昇進した時点で組合員の範囲から除外になっていました。「管理者」「本社社員」組合員化によって、火野宮委員長ら役員のみなさんは組合員の範囲から除外されずに、そのまま委員長などの役員を続けられます。

続きは次号（その4）で明らかにします。

メールアドレス・jsrou@yahoo.ne.jp

